

## 宮本茶園

小学生の頃より読み続けていた新聞ですが、定期購読を止めました。宮本茶園は4年連続の赤字経営、涙ぐましい経費削減です。藤野移住時にテレビを捨てついに新聞も読まなくなり、山で猿にしか会わない私が社会情勢を知る手段は、今や軽トラのラジオとスマホだけになりました。この夏嬉しかったのはオリンピック開会式での抗議の声を伝えるニュースでした。「開会式プログラムが中断し静寂になると『オリンピック今すぐやめろ!』のコールがスタジアムに響いていましたね」とラジオで聞き、たくさんの方が「オリンピックより命」と怒りの声を上げている事に勇気ももらいました。また「教員免許更新制23年度に廃止へ」のニュースには、特殊教育研究部の昔仲間から「文科省目的達成したな!」とメールもらいました。学大サークル長屋の部室で社会の理不尽に怒りデモや集会に参加して教育労働者になった私たちは、誰も管理職にならず(なれず?)定年退職を迎える前に学校を去りました。「蠅螂の斧」教員の私は学校から排除されましたが、佐野川に根差して不屈に生き続けています!

### ・4年目の佐野川茶

足柄茶の荒茶買い入れ価格が低迷し、各産地の茶農家は苦しんでいます。藤野茶業部会では、県農業技術センターの木村先生から「今年は販路を持つ農家は足柄茶に出荷するより、自分で売る努力をしましょう」と指導がありました。木村先生は「相模原市は県庁所在地・政令指定都市の緑茶に対する年間支出金額ランキング9位、一世帯当たり5173円購入しています。市民の皆さんにもっと佐野川茶を飲んでいただきましょう!」と語ります。相模原市民が購入する年間5173円の緑茶、1000円の上級煎茶1袋が入るだけで佐野川茶の未来は安泰です。

24号で佐野川茶用荒茶を藤沢市の茶来末に搬送した事をお伝えしましたが、一番茶全収量の半分と昨年からの取り組んでいる一番茶摘採後に刈捨てていた葉を活用した刈番茶が今年度佐野川茶製品原料です。昨年の倍以上ある荒茶、部会で用途について話し合いました。刈番茶は一番棒ほうじ茶と業務用粉末緑茶に加工しましたが、今年は葉の仕上がりが具合が良好です。茶来末の佐々木社長のアドバイスで新製品としてほうじ茶を製造する事にしました。荒茶は夏を越すと熟成が進んで味がまろやかになるそうで、一番棒ほうじ茶とほうじ茶は10月14日発売予定で準備しています。ほうじ茶はカフェインが少なく体を温める効果の高い飲み物です。秋の夜長、虫の音を楽しみながら藤野茶業部新製品ほうじ茶をご愛飲ください。

1984年から続く成合会、自然文化誌研究会冒険探検部草創期メンバーで若くして亡くなった成合君を慕う仲間が集まりです。毎年命日に近い10月最終土曜日谷中の墓地

## 宮本透

にお参りして呑み会になりますが、私はすっかり佐野川茶を行商しています。さいたま市に住む石田君から「自治会長をして敬老の日記念品を準備しているのですが、先輩の佐野川茶購入できますか?」と連絡がありました。狭山茶産地埼玉県からいただいた藤野茶業部初めての大きな取引、佐々木社長と相談し上級煎茶を納める事にしました。自治会から提示された贈答箱にお祝カード・佐野川茶紹介チラシ・上級煎茶2袋を詰める仕事は一日がかりでしたが、佐野川茶を飲んでくださるお年寄りの健康と長寿を祈念しながら部員一同心を込めて作業しました。(写真①②)



### ・夏の茶仕事

この夏は県農業技術センターの指導で藤野茶業部各茶園の更新作業を行いました。藤野茶業部では5月に一番茶を摘採した後、夏整枝・秋整枝・春整枝と年3回整枝講習会を開催して良質茶葉の生産に取り組んでいます。季節毎の整枝作業は摘採・整枝した株表面から新しく伸びた枝を数芽残して刈るので、茶園の樹高は毎年数cmずつ高くなります。整枝を繰り返すと茶株面の下に日光が届かず、枝が細く新芽が少なくなって葉層が薄くなり茶葉の品質が低下します。そのため茶農家は数年おきに古い枝を深く切り落とす剪枝をして茶樹の更新を行い、良質の芽が数多く出るように茶園管理します。

5月下旬宮本茶園の営農指導をお願いし、葉層が5cm程で枝が割り箸のように細く良質の葉が収穫できない上岩の茶園を地際から30cm程の高さまで切り詰める中切り更新をしました。細い枝が絡み合って密集する茶樹を剪枝するには、剪枝機で3往復しなければ切り詰める事ができません。更新に使う剪枝機は整枝用の浅番刈機や刈らし機と比べ重量があり、長時間作業すると汗だくです。木村先生・山崎先生と私の3人で交代しながら刈り続けましたが、一日かけて5畝がやっとでした。



6月半ばからは中村茶園・大河原茶園・和田茶園で深刈り更新をしました。深刈り更新は古葉が残らない程度に摘

採面から 10~20cm 切り落とす作業で、今回はヘルパーの神田さんを入れ 4 人で 2 台の剪枝機を使い効率よく剪枝して行きました。中切り更新は一番茶樹採後~6 月 10 日頃、深刈り更新は 6 月 10 日~25 日頃、夏整枝は 6 月 25 日~7 月 10 日頃を目安に行う作業で、それぞれ梅雨明け後に新芽が出るよう考えながら茶樹の枝を切り落とします。佐野川は産地全体で農薬を使わない茶栽培に取り組んでいますが、藤野茶業部農家は病害虫が発生しないよう常に細心の注意を払って剪枝・整枝作業を行っています。

JA 神奈川つくい 5 月号で「茶園の管理作業や摘取のお手伝いをしていただけの方を募集」と呼びかけました。申し込みのあった参加者に月 1 回ヘルパー養成研修会を開催し、6 月深刈り更新・7 月夏整枝・8 月夏肥・9 月秋肥・10 月秋整枝と「茶園管理ごよみ」に基づいた整枝・施肥作業を学んでもらっています。参加者は熱心に大河原部長の講義を聞き機械操作を勉強しているので、来年の佐奈川茶収穫がとても楽しみです！



### ・第 43 回相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会

昨年から引き続きコロナ禍の影響で 7 月 25 日献花追悼のみで実施する事になった第 43 回相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会、私は上岩花卉畑で献花用生花栽培に取り組みました。昨年はひまわりとアスターを植え付けましたが、今年は紅花と百日草を加えました。30 年程前横須賀市に住む在日韓国人が主催する学習会に参加し、日本の朝鮮植民地支配や戦時徴用工強制連行の歴史を学んだ事がありました。彼は村に来た日本兵に銃剣を突きつけられて無理やりトラックに乗せられ日本へ強制連行されたそうです。戦時徴用工として山形県の鉱山で奴隷のように酷使された塗炭の苦しみを静かに語ってくれました。彼の話の思い出しながら紅花を育てました。

22 号で報告しましたが追悼会当日に開花ピークを作る栽培技術は難しく、残念ながら紅花は全て咲き終わりアスターは開花が間に合いませんでした。今年の献花用生花栽培は実行委員の吉田さんが除草作業を担ってくださり、ひまわりと百日草はふんだんに用意する事ができました。追悼会前日の収穫作業は実行委員会から相模原市教組の先生も参加し、数百本のひまわり・百日草を切りました。相模湖交流センターの会場に設置された献花台には本村賢太郎相模原市長をはじめたくさんの方々がダム建設工事犠牲者へ生花を手向けてくださいました。

追悼会翌週は神奈川朝鮮中高級学校の生徒たちが相模ダムを訪れる課外学習が行われました。受け入れ案内担当の橋本さんにお願ひし、上岩花卉畑で咲き誇るひまわりを湖畔のダム建設工事犠牲者追悼碑への献花に使ってもらいました。細かな打ち合わせができず生花を届けたのは生徒た

ちのフィールドワークが始まる直前でしたが、担任の先生が時間をくださり交流する事ができました。「強制連行した戦時徴用工・軍隊慰安婦被害者に謝罪・補償しない日本政府や歴史をねじ曲げる右翼が台頭する日本の中で、私にできる被害者への謝罪は佐野川で心を込めて草花を栽培して追悼会の献花に使っていただく事です」と一言だけあいさつしました。アミーゴ月曜サロンで橋本さんから「子どもたちは宮本さんの言葉しっかりと受け止めていたよ」と聞かされ、胸が熱くなりました。

### ・雑穀街道普及会夏の活動

上岩雑穀畑の作業は、茶園更新剪枝作業や長雨の影響で予定通りに行うことができませんでした。麦の収穫は 6 月 14 日から大麦、24 日から南部小麦と梅雨の晴れ間に刈り取っていったのですが、月末までに終わらず 7 月に持ち越しました。7 月上旬の長雨で水をたっぷり吸った穂が発芽し、7 月 9 日に団子麦を刈ったところで残りの収穫を断念しました。ともあれ収穫した大麦・南部小麦は千木良のヤギ苑で高橋さんに脱穀していただいたので、ちーむゴエモン活動の麦味噌・醤油原料が確保でき一安心です。7 月 11 日から雑穀と大豆の植え付けを行いました。種まきが終わると梅雨が明けると真夏の太陽が照り付けます。穂が新芽で浅黄色になった団子麦を刈り払い機で株元から刈り、積み上げて火を放ちました。パチパチはぜる麦粒の音を聞くとむなししい気持ちが込み上げて、体力気力が衰え老人になっていく現実を受け止めました。



8 月下旬になるとキビが出穂してきます。INCH 運営委員会に防鳥ネット張りの手伝いを呼びかけましたが反応がなく、懇意にしているご近所をお願いしてネットを張りました。ネットの弛みを直しながら麻ヒモで支柱パイプに固定し、強風に飛ばされないよう重石に裏山の竹を切って運ぶ作業を数日続けました。これらの作業は雑穀栽培講習会で実施できるとよいのですが、まだまだ課題が多いようです。

雑穀街道普及会幹事で東京農大院生の玉木さんは「無形の家」にあったローカルシードバンクを引き取り、農大厚木キャンパスで系統保存に取り組んでいます。山梨県早川町は雑穀栽培復活に取り組み、シードバンクに保存されている種子の増殖を玉木さんに委託しています。早川町関係者の農大視察に同行させていただきました。情報交換して有意義な時間を過ごしましたが、雑穀研究を続ける玉木さんの姿は学大農場の温室で黙々と系統保存の仕事をしている木俣師と重なります。2023 年は国際雑穀年、各地で色々な取り組みが始まっています。

※佐野川での雑穀街道普及会活動に興味のある方は宮本携帯 (090-2205-8476) へご連絡ください。